

令和7年度 京田辺市産業振興ビジョン推進委員会 (第3回) 会議要旨

1 開会

2 会議の公開について

傍聴希望者なし

3 第2次京田辺市産業振興ビジョン(案)及びアクションプラン(案)について

【事務局】(資料説明)

【委員長】今回の産業振興ビジョン案では、国の統計データを追加し、京田辺市における社会的な変化が及ぼす影響を分析し、課題を抽出している。その課題に基づき前ビジョンから「継続的なもの」、「更に強化をすべきもの」、「新規のもの」に分けた面から全体としてビジョンらしい報告書になっている

【委員】観光の分野について、記載されている名所の選定はどのようにしたのか。観光に力を入れるのであれば、細かいところも掲載すべきでは。

【事務局】名所は代表的なものを例示として記載している。具体的な観光資源は27ページの「観光の概要」で市の観光パンフレットを掲載している。ビジョン自体にすべて載せるのか、アクションプランに基づく事業を進めていく中で観光資源を取り上げていくかは、もう少しこちらで議論したい。

【委員】華嚴寺は誰かが鈴虫寺と名付け有名になった話を聞いた。本市でも何か作らないと有名なものはできないのではないかと。

【委員長】新しいものを作ることも一つのPRだと考える。

【委員】以前、京都駅で一休寺のPRをされたと記憶している。近鉄と交渉し京都から奈良へ行く観光客へPRできないか。そこで、京田辺を

巡るツアーを企画するなど人を呼び込むのかどうか。

【事務局】鉄道会社のキャンペーンであると認識している。これ以外でも市や観光協会が京都駅でPRしたり、現在もチラシを配架している。バスツアーは、秋に一休寺を含む他市町村の寺院を組み合わせたツアーをバス会社が実施している。

【委員長】委員からの観光への意見をすべて記載することはできないため、これまでの意見を寄せて、観光協会と一緒に提言してもらう形の協議会や委員会を立ち上げ、「具体的な形」で「あるべき仕組み」の検討を進めることも一つであると考え。仕組みは記載できても個別を記載していくとビジョンにならないため、あくまで例示として代表的なものを挙げている理解でよい。

【委員】参考資料で委員から「観光ボランティアガイド協会の運営について、様々な状況の中ガイド協会として自走していくことが今後5年間可能か不透明」とあるが、その具体は。

【事務局】観光ボランティアガイド協会が今後の活動について観光協会と協議されたと聞いており、そのことを書いていると推察する。市は、ガイド協会から今後も独立した運営をしていきたいと聞いており、この箇所に関して委員の意見内容は反映させていない。

【委員】天王、高船、打田エリアは、風光明媚で百花繚乱、歴史も古く歴史的な遺産がある。山間部のため歩いてめぐる周遊は難しいので、マイクロバスでポイントまで行き、歩いてもらう。天王、高船、打田という魅力のある地域資源、観光資源を掘り起こしたら素晴らしいと思う。

【委員長】書き込めるかどうかは別として、1つのアイデアとしてコース開発を検討すべきだと思う。観光協会がどう考えているかは分からないが、何らかの形で観光資源の掘り起こしを行い、実際にモデルコースを作って歩いてみて、良いコースがあれば複数のコースを設定できると思う。実際に歩くことで道路の整備状況や注意点なども分かり、マップ作りや自転車道の整備など次の事業展開にもつながる可能性もある。観光協会が欠席なので一方的に押し付けることはできないが、新しい観光の掘り起こしの仕組みづくりとして検討する形だったら例示として入れてもいいかもしれない。

【委員】京都府美山町のように多くの観光客を呼び込めるようになれば

良い。美山町では人を呼ぶためにお店を作ったり、お茶が飲める休憩場所を設けたりしており、そうした休憩できる場所が必要だと思う。

【委員長】美山町は世界遺産を目指して運動していたが、茅葺の屋根が密集していることが文化財になっている。そういう面からいうとオープンミュージアムを目指したことになる。オープンミュージアムの考え方でいえば京田辺全体は歴史的なものがいろいろある。オープンミュージアムの考え方は良いと思う。

【委員】ツアー・オブ・ジャパンを上手く京田辺市の観光につなげられたら素晴らしいと思う。

【委員長】別の委員会でも、「京田辺を自転車のまちへ」という意見があった。いろんなところで声をあげていけないといけませんが、コースを作って参加者の声を聴いて、整備を進めるということをしていく必要がある。そうすると、公共交通機関も関心を持ってくれる。その盛り上がりはどこかからしていけないといけないという気がする。なかなか感性だけでは難しいので、そういう仕組みづくりをしないといけませんが、市と市民との橋渡しをするような中間組織が少ない。そういう面で市民に近い中間組織を作ることが必要で、そのためには市が助成してもおかしくはないと思う。本来、行政がやらないといけない仕事が忙しくてできない。それを中間組織に渡すことによって、彼らは行政の代わりに自分たちのアイデアを出し合って運用していくという形の場合が作ればという気がしているが、これがなかなか他の市でも成功する例は少ない。

【委員】「支援する」という言葉が多く出てくる。その支援は必要であるが、お金を出すという支援ではなくて、何かと何かを結びつけるそのコーディネーター的な役割、それができないとお金を無駄遣いしている感じになる。コーディネーター的な役割を果たすということがこの支援の意味であると理解してもらいたい。

【委員長】行政はコーディネーターであり、どう結びつけるか、あるいは情報を提供するかという形で、お金だけではない。お互いにそういう形をわきまえた上でしていけば、お金を使わずにまちづくりができる。昔ながらの市民は行政を頼り過ぎているので、市民が行政から独立、自立をしなくてはいけない。そういう市民を作っていくのが重要なことではないかと思う。

【委員】京田辺に観光スポットはあるが、観光客に勝手に行ってくださいというイメージがある。これを例えばバスでルートを作るのは難しいので、タクシー会社でガイドを兼ねる専門のドライバーさんを出してもらってはどうか。

【委員長】異業種が集まって1つのイベントができてくるので、タクシー会社にお問い合わせするというのも連携の一つだと思う。

【委員】「ウッドデザインパーク京都一彩」は観光資源に該当しないのか。具体的な名称は出していないということか。

【事務局】28 ページ「②新たな観光資源への可能性」の中で触れている。企業名は出せないが、市の土地を活用して事業をするので、もちろん事業者もビジョンに沿って進めていく必要はあると認識している。

【委員】56 ページ「みんなにやさしい買い物環境の整備」について、最近ネットスーパーがありますが、商品を家まで運んでくれるので市民にとっては便利なのかもしれない。市外への消費の流出になるかもしれないが、市民サービスという観点ではどうか。

【事務局】市民の利便性を考えるとそうかもしれないが、市内産業の振興という面でビジョンを策定しているため、市内の事業者が繁栄できるような施策を掲載している。

【委員長】ビジョンを一番簡単にできる方法は地域通貨を作ること。これは市場経済と助け合いの互酬性の経済、2つを兼ねた形での経済である。全国いろんなところで行っているが、中でもごみと地域通貨をつなげて一生懸命取り組んでいるのは城南衛生管理組合である。地域循環としてはお金も回ればごみも循環経済に変わり、商業の活性化にもつながる。また、ボランティアに地域通貨が与えられて助け合いも増えるということで、環境省も注目し始めた取組。そこまでは理解が進まないので一気にできないと思うが、基本的にそういう考え方をしていけば産業ビジョン、地域循環の中で産業の活性化を図っていくと意味が出てくるだろうと思う。

【委員】28 ページ「②新たな観光資源への可能性」で、タナクロをオープンした目的が、観光のカテゴリに入るのだろうか、という思いがあり、例えば私の観光のイメージは市外、府外から来た人が楽しむことで、タナクロは市民の憩いの場であって、観光のカテゴリに入るのかというの

が一点と、資料2アクションプラン8ページの一番下、(2)交通網の利便性を生かした企業立地促進の「事業の目的」で、けいはんなフードテックヒルができると思うが、「既存事業者の事業拡大により、雇用促進と自主財源の確保を図る。」ということで、大きな企業が来ることになると、京田辺は人材不足で小規模事業者が多いので、福利厚生や給与の面で余計に人材確保が厳しくなるのではないか。

【事務局】タナクロは市民の公園という位置づけだが、観光はその地域で輝くものが観光だと考えており、例えばタナクロが市民の中で盛り上がり、それによって市外から人が集まってくることで観光につながる要素はあると考えている。フードテックヒルの件は、大企業が来て、良い雇用条件で採用することによって他の中小事業者の人材不足が加速するというご心配は理解できる。まだ先の話で具体性がない中でお答えしにくいですが、現時点ではどんな規模、どのような業種がくるのか、基本的には研究が必要になるため、必ずしも京田辺市内で求められている中小企業の人材とフードテックに立地する企業の人材が重なるということもないと考えている。「事業の目的」の文章がおかしい部分があるかもしれないので、そこは精査する。

【委員長】プル要因とプッシュ要因があり、どちらが強いかによって影響が変わるので、実際は予測がつかないことがある。観光は旅行とは違ってそこで光り輝いているものを見るのが本来の観光の意味なので、観光資源に育てたいということだろうと思った。

【委員】20ページの有害鳥獣(イノシシ)の捕獲数のグラフで、捕獲数が増えている。分母がわからないので何頭いるかわからないが、捕獲数が増えているということは分母が増えていると推測する。一方、被害額は減少している。普通は比例してイノシシが増えたら被害も増えると思うが、イノシシが捕獲されたことによって被害額が減少していると分析したらよいか。

【事務局】一般的にイノシシの多い年は捕獲の数も多くなる傾向はあると思う。農政では設置した檻への餌入れや見回りを農家をお願いして駆除員の負担を減らすことで、檻自体の設置数を増やして捕獲数を増やしていく方向で動いている。イノシシが増えていることもあるが、頑張っ

地への電柵や防護柵をしっかりと徹底してやっているところが増えたため減っているという見方をされていた。ただ、田んぼの中に入りにくくなると今度は畔を掘り起こしたりと、被害額としては出てこないかもしれないが、作物への被害ではなく農業施設に対する被害も出てきているため、被害額が減ったからといって地元への影響がすごく減ったということでもないと考えている。

【委員】全体的に関わることだが、38 ページで「課題」ということで、それぞれの課題の対応策を書かれている。委員長の発言に関連するが、市外に消費が出ているということで域内循環の話をして、域内循環の仕組みづくりを明確にしないといけないと改めて思った。京田辺市で生まれた仕事を域内で回していく。そういう持続、継続的なシステムを書く必要があると思う。そのためには市役所内の業務も市内に還元できる可能性があると思うし、そういった連携で仕事を渡し合っただ中で消費していくことが必要だと思っており、その為にも市民が地域の店やサービスを選びやすくするような情報発信をする必要があると思っている。お金が回る体制を整えることで地域全体の活性化になると思い、域内循環の大切さを書いておく必要があると感じる。

【委員長】恐らく次のビジョンでの課題だと認識している。循環経済の構築は1章、2章では書かれていないので、次回の見直しのタイミングになるのではないかと。委員会としてはテイクノートして、今回は見送りにしていただけたらと思う。

4 第2次京田辺市産業振興ビジョンの策定に係る今後のスケジュールについて

【事務局】本日の会議終了後、本日でた意見を反映させビジョン案を調整。そこからパブリックコメント案へと仕上げ、令和8年1月からパブリックコメントを1か月間実施するということを考えている。パブリックコメント終了後、意見の集計をし、必要に応じてビジョン案に修正を加え、3月上旬頃に第4回の推進委員会を開催し、そこで市への報告案を最終確定するというように考えている。

5 閉会